

建 議 書

昭島市民大学の検討及び提言

平成 30 年 9 月

昭島市公民館運営審議会

	頁
はじめに	1
現在の市民大学	1
現状と課題	2
1 学習目的	
2 カリキュラム(教育課程)	
3 参加者を増やすために	
4 運営	
5 その他	
6 他市の参考例(特色のある項目)	
資料	
1 市民大学にかかる経費・年代別参加者	4
2 市民大学期別の参加者	5
3 市民大学についてのアンケート	6
8期受講生	11
修了生	20
4 チューターの意見	20
昭島市公民館運営審議会建議作成経過	22
昭島市公民館運営審議委員	
(任期 平成 28 年 10 月 1 日～平成 30 年 9 月 30 日)	
会 長 大串 隆吉 委員 柳 賢司	
副会長 山崎 功 横山 四郎	
委 員 天沼 典子 小川 千鶴子	
大澤 俊則 植松 和子	
加賀田 真理 井桁 武	

はじめに

昭島市民大学は平成 14 年に開校し、今年は 9 期目です。16 年以上経過した今日、時代に合った方策を取り入れていくことが求められています。

市民には専門的な学問に対しての潜在需要があります。市民大学はそれに応えてきました。修了生は、昭島市民大学フォーラムを核にして、自主的な講座開催や研究会を実施しています。個人的にも、市内各地、各分野にて指導的な活躍をされている方がおられます。公民館運営審議委員にも毎期数名の方が参加しています。市民大学の目的である地域への貢献は実践されており、今後も持続して行けるよう望みます。

公民館の事業として、市民大学は大きな比重を占めています。他市の市民大学と比較しても、内容が充実していて専門性が高いのが特色になっています。しかし、近年応募者の減少があり、定員（50 人）を確保するのに苦労しています。又、2 年次への進級時に中途退学する人も多くなりました。その理由には、健康の悪化、希望のコースがない、難しい、参加者同士の関係悪化があります。

そのため、現状の把握と課題を明らかにして、方向性を示したいと思います。建議書作成について、市民大学在校生及び市民大学フォーラムの方々よりアンケートを頂きました。また、チューターの方の意見を聴くことが出来ました。町田市と座間市の市民大学について情報を頂きました。各種情報を参考にして、まとめた事を建議として提出いたします。

現在の市民大学

市民大学募集案内によると、市民大学は生涯学習の一環として、市民一人ひとりが学習を通して知識を深め、その成果を地域社会で発揮することなどを目的とするとあります。

市民大学開設要項 2 条 基本理念

- (1) 市民の自発的な学習を通して、自己実現の機会を提供する。
- (2) 市民相互における連帯意識の醸成を図る。
- (3) 学習の企画、運営において市民参画を図る。
- (4) 学習成果の公共的活用を図る。

市民大学開設要項 4 条 学習課程 2 年とする

市民大学は社会の急激な変化に対応し、人間性豊かな生活を営むために、市民が学習する必要のある課題「現代的課題」について学び、課題解決に取り組むための主体性を養うことを学習目的とする。

- (1) 1 年次の学習は、一般教養や様々な現代的課題に関する基礎知識を習得する。
- (2) 2 年次の学習は、課題別コースを導入する。受講者については自らが選択したコースに応じた専門的な学習内容を企画立案し、主体的な学習を通して、市民としての自治能力や連帯意識を培う。

市民大学開設要項は平成 14 年 5 月から実施されていますが、現在でもそのまま通用すべきだと考えます。

現状と課題

1 学習目的

市民大学の学習目的について、受講生の中で認識に温度差があります。受講理由では、教養を高め交流を図ることを求める人が多く、地域活動への参加を目的にする人は少数です。入学時の期待と授業内容が合わない場合がでてきますが、自己を満足させることと、地域貢献を統一させることが課題となっています。そこで、市民大学の理念を再度はっきり確認することが必要です。

2 カリキュラム（教育課程）

1 年次の一般教養は、昭島市に関して全般的に学べて良かったという意見が大多数です。2 年次の専門コースは意見が分かれます。専門度の高い学習ができ、調べ学習で記録を残せて達成感を持てた人と、逆に調べ学習や記録作成に苦労した人がいます。

- (1) カリキュラムは時代に合った目新しい内容にし、興味がわくものにする。
- (2) パソコン講座や調べる為の準備学習を行う。
- (3) 公民館主催のボランティア参加（障害者青年学級、子ども教室等）など、地域貢献の機会を提供する。
- (4) 2 年次の調べ学習で取り組みたい事が見つからない人が多いため、1 年次から専門コースを決めることができるようにする。
- (5) 2 年次専門コースの選択肢を増やす。オールラウンドのコースを設ける。
- (6) 2 年次は自由課題にして、自主的な学習に徹する。アドバイザーを付ける。専門コースを増やすと講師増になり予算がかかる。
- (7) 調べ学習を難しく感じる人もいるが、調べることで身に着く事も大事である。そこで、2 年次記録作成は完成型でなくても良いことにし、生涯学習を継続させるための中間報告でも可とする。希望者には、専門コースのような修了後も学習を継続できる体制をつくる。
- (8) その他として、1 年次の一般教養のみで卒業するコースも考えられる。

3 参加者を増やすために

出席率について 修了条件の出席率 8 割はハードルが高すぎます。収入を得るための仕事、家族の介護、本人の健康、その他の用事で、休まざるを得ない事が多くあります。

- (1) 出席率は三分の二で、修了可としたい。
- (2) さらにレポートの仕上がり具合や受講態度を考慮してチューターの判断

も取り入れたい。

(3) 特別オプション講座をつくり、補習に充てて出席にする。

(4) その他として参加者維持のため、中途入学ができるようにする。

4 運営

教育・学習のための運営会議を設けます。

(1) 修了の判定

(2) チューター、担当者の意見交換

(3) 改善の検討

委員は、チューター、担当職員、館長と公運審委員、フォーラム委員、受講生の代表等。館長が、学長として議長を務める。

5 その他

(1) 年齢制限 生涯学習を目指し、ある程度年代が上の人を対象にして定年、リタイア後の準備期間としているので40歳以上で妥当である。

(2) 学生証を発行し、調べ学習時の名刺として身分証明に役立てる。

(3) 市民大学事業に重点配分のため、他の長期的な講座が少なくなっていないか。全体に占めるバランスが合っているか。

(4) 市民大学とは別に継続的テーマで学べる講座も増やす。多数の人が学べる教養講座を増やす。

6 他市の参考例 (特色のある項目)

(1) 座間市 あすなろ大学

①講師に頼らず自主的な調べ学習が多い。

②先輩が学習支援する。

③一般教養コースはない。

④卒業の規定がなく、いつまでも在籍できる。

(2) 町田市 市民大学HATS

①公開講座がある。

②5コース合同の学習会がある。

(3) 町田市 ことぶき大学

①受講者が多い 5コース、定員各80～150名、回数6回

◆市民大学にかかる経費									
			受講者数	市民大学経費 (講師謝礼)		講師謝礼 決算額		決算額に 占める割合	受講者1名に かかる経費
H14	1期	1年次	66	414,364		2,931,500		14.13	6,278
H15		2年次	56	1,690,183		3,957,665		42.71	30,182
H16	2期	1年次	38	391,000		2,973,180		13.15	10,289
H17		2年次	31	980,000		2,638,000		37.15	31,613
H18	3期	1年次	39	412,000		2,557,500		16.11	10,564
H19		2年次	33	874,000		2,501,500		34.94	26,485
H20	4期	1年次	54	403,000		2,436,300		16.54	7,463
H21		2年次	45	820,000		2,492,750		32.90	18,222
H22	5期	1年次	54	489,000		2,236,300		21.87	9,056
H23		2年次	41	747,500		2,089,500		35.77	18,232
H24	6期	1年次	43	408,000		2,128,000		19.17	9,488
H25		2年次	38	756,000		1,746,247		43.29	19,895
H26	7期	1年次	46	430,000		1,716,500		25.05	9,348
H27		2年次	37	710,500		1,939,397		36.64	19,203
H28	8期	1年次	48	506,500		1,744,500		29.03	10,552
H29		2年次	31	820,000 ※		2,354,000 ※		34.83	26,452
※8期2年次の金額は、予算額を掲載									



市民大学期別の参加者

※人数は、1・2年次とも参加者となっています。

期 町名	市民大学第1期		市民大学第2期		市民大学第3期		市民大学第4期		市民大学第5期		市民大学第6期		市民大学第7期		市民大学第8期		合計			
	1年次	2年次	1年次	2年次	1年次	2年次	1年次	2年次	1年次	2年次	1年次	2年次	1年次	2年次	1年次	2年次	1年次	2年次	町名別参加者	
拝島町	0	0	0	0	3	3	3	2	1	1	3	3	3	2	2	2	15	13	拝島町	28
緑町	8	6	2	2	5	4	1	1	5	1	3	2	2	2	2	2	28	20	緑町	48
松原町	3	3	5	4	5	3	3	3	5	3	1	1	3	3	5	4	30	24	松原町	54
美堀町	3	2	3	3	3	3	6	5	3	3	4	3	2	2	2	1	26	22	美堀町	48
田中町	6	6	2	2	1	1	3	3	2	2	4	4	6	6	4	3	28	27	田中町	55
昭和町	2	2	2	2	1	1	0	0	4	3	2	2	1	1	2	1	14	12	昭和町	26
上川原町	1	1	0	0	0	0	2	2	2	0	0	0	1	1	2	0	8	4	上川原町	12
朝日町	3	3	2	0	2	2	1	1	1	1	3	3	2	1	3	1	17	12	朝日町	29
中神町	6	6	5	4	2	1	5	4	4	4	3	1	5	3	5	4	35	27	中神町	62
武蔵野町	3	3	1	1	1	0	2	2	2	2	2	1	0	0	2	2	13	11	武蔵野町	24
宮沢町	5	5	1	1	4	4	4	4	3	3	3	3	3	3	3	3	26	26	宮沢町	52
築地町	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1	0	0	0	0	1	1	築地町	2
玉川町	5	5	3	2	1	1	4	4	3	3	2	2	3	3	2	0	23	20	玉川町	43
福島町	3	2	1	1	0	0	2	2	2	2	1	1	2	1	2	2	13	11	福島町	24
郷地町	2	1	1	1	1	1	1	1	1	1	2	2	2	2	1	0	11	9	郷地町	20
東町	0	0	0	0	1	1	2	1	2	2	0	0	4	4	4	2	13	10	東町	23
つつじが丘	14	12	7	6	9	8	14	9	14	10	9	9	7	3	7	3	81	60	つつじが丘	141
大神町	1	0	2	1	0	0	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	4	2	大神町	6
あきる野市	1	1															1	1	あきる野市	2
立川市			1	1													1	1	立川市	2
合計	66	58	38	31	39	33	54	45	54	41	43	38	46	37	48	30	388	313		701

「市民大学」についてのアンケート調査集計（対象者：8期受講生）

＜受講者数、アンケート提出者数について＞

- ・市民大学受講者数（第8期）は1年次で48名在籍したが、2年次修了時では23名（福祉12名、歴史8名、財政3名）となり、半減した。
- ・アンケート提出者数は23名中18名が提出（提出率78.3%）し高率をみた。

1. アンケート提出者の年齢、男女別、住まいについて

- ・年齢、男女

	80歳代	70歳代	60歳代	計
男	0	5	5	10
女	2	4	2	8
合計	2	9	7	18

- ・昭島市住所（町名別）

	武蔵野	つつじが丘	昭和	拝島	美堀	中神	宮沢	福島	松原	田中	朝日	未記入
男	1	1	1	2	1	1	1	0	0	0	0	1
女	1	0	0	0	0	4	0	1	1	1	1	0
合計	2	1	1	2	1	5	1	1	1	1	1	1

2. 受講理由について

自己実現を目的としている人が大多数である。

知識教養を高める（13名）、昭島市のことを知る（12名）、人との交流をはかる（10名）。地域活動として参加するは4名（22.2%）で少数であった。

3. 市民大学には以下の4つの開設目的がありますがご存知でしたか

【開設目的】①自発的な学習を通しての自己実現の機会提供 ②自治能力や連帯意識の形成 ③市民大学や各種講座の企画・運営への参画 ④学習成果の地域社会への活用。

開設目的をあまり重く捉えていない。

知っている（1名）、知っているが深くは知らないが最多（13名）。

4. 3で、知っていると答えた方にお聞きします

全般的に認識度は低い。

開設目的を認識し対応するように努めたい（6名）、開設目的にあまり固執せず、自分にできることを行いたい（3名）。設問3で、知っている（1名）と深くは知らない（8名）の回答者から回答を得た。

5. 現在の市民大学(第8期)について

(1) 入学時の年齢制限について(現状は40才以上)

年齢制限は必要ない(8名)、年齢制限は必要(9名)。必要と不要が半々、必要と回答した人は半数より多い。年齢制限は40歳以上4名、50歳以上2名、60歳以上2名と様々。

(2) 2年制について

高齢者になるほど短いと感じている。

「良い」(12名)が大多数、「長い」(1名)、「短い」(4名)。「短い」と回答した人は、80歳代1名、70歳代2名、60歳代1名。

(3) 学習課程について(1年次)教養・基礎の学習、(2年次)コース制専門学習)

圧倒的に「良い」の回答(94.1%)。「良い」(16名)、「良いと思わない」(1名)。

(4) 1年次のカリキュラム内容について

男性と女性で、唯一意見が分かれた。男性は「良い」(8名)、「普通」(1名)。女性は「良い」(4名)、「普通」(3名)、「良くない」(1名)であった。女性は必ずしも満足していないのでは。それに伴い、以下の意見を得た。

(80歳代女性、「普通」に回答)

- ・後期高齢者なので、年齢が多いほどいろいろ経験やら知っていることも多い。

(「既に知っている内容の講座があり、新しい発見を得られないことがあった。」という意味か?)

(70歳代女性、「良くない」に回答)

- ・新しい社会変化についていけるような内容が欲しい。図書館の使い方よりパソコンの使い方を知りたい。

(5) 2年次進級について(現在は、原則1年次の出席率80%超が進級に必要です)

意見が分かれた。2年次進級条件の80%以上出席はやや苦か?

「良い」(9名)、「良いと思わない」(8名)。

2名の方から(60歳代男性、70歳代女性)から60%との意見が出た。

意見の一覧は以下の通り。

「良い」

- ・ただし、事情によりやむを得ない理由なら70%位でも認めても良い。

(60歳代女性)

「良いと思わない」

- ・出席日数より参加する意欲。(70歳代男性)

- ・80%の出席は難しい方が少なくないと思います。60%が良い。

(60歳代男性)

- ・出席率65%以上。個人差有り、年齢別による。(60歳代男性)

- ・基準は難しいが、80%以下でも2年次への意欲の有無やその気力によって考えるべき。でも、一応80%を謳っても良いと思う。(60歳代男性)

- ・個人学習でなく、グループ学習が良い。(60 歳代男性)
- ・病欠の時は？(80 歳代女性)
- ・80%を目標にしつつ、60～70%でも希望者にはチャンスを与える。
(70 歳代女性)
- ・他との関わりで休まざるを得ない日がある。(70 歳代女性)

(6) 2年次のコースについて(第8期は「福祉」「財政」「歴史」の3コース)

「良い」(7名)、普通(6名)、良くない(4名)。回答が分かれた。

希望するテーマを記載した人あり、「防災(減災)」、「健康」、「自分史」が出された。
また、「テーマを決めずに行う」と記載された方が2名いた。

(7) クラスメイトについて

「良い」が(10名)、「普通」(6名)、「親しくなりにくい」(1名)であった。

交流が十分でできなかった方が7名とすると回答率41.1%で軽視できない。カリキュラムに交流する講座を演出していくことが必要か？

(8) チューターについて

チューターの先生方は好評であった。意見として、「地域の活動者などがいいね。」

(「普通」60 歳代男性)があった。「良い」(12名)、「普通」(4名)、未記入(1名)。

(9) 大学終了後の活動について

自主的にコース別公開講座の開設や、市民大学フォーラムの学習活動が期待されています。大多数の方が、今後も意欲的に学習活動の継続を望んでいる。

「公開講座を開設し学習の成果を発表したい」(2名)、「市民大学フォーラムで学習活動を継続したい」(10名)、その他(3名)、未記入(3名)。

意見の一覧は以下のとおり

「市民大学フォーラムで学習活動を継続したい」の回答者

- ・協力したい。(70 歳代男性)
- ・興味のある公開講座を都合で受講できませんでした。引き続き歴史に関する学習活動に参加したいと思っています。(60 歳代男性)
- ・自分のレベルで大丈夫なら。(60 歳代女性)

「その他」の回答者

- ・子供中心のイベントと、図書館が新しくなってそこで楽しくなるような催事を手伝いたい。公民館の活動に興味・関心があるが、交通の不便なところに住んでいるので、参加できないのが残念。(70 歳代女性、福島町在住)
- ・歴史や古地図に関する何かの会があったら入りたい。観光協会のナビゲーターボランティアで知識を生かしたい。(60 歳代女性)

6. 今後の市民大学のあり方についてご意見を記入して下さい

70 歳代〈男性〉

- ・学習の記録等で、調査・学習の結果をまとめています。内容として、実習の割合（見学・体験等）を増してゆけたら充実した記録ができるのではないかと思います。
- ・終了後の進め方等のレクチャーが欲しい。どのような講座があるか。開設の方法、協力団体、進め方等。フォーラムについても同じ。
- ・同期で集まった同志が、チューターの来館予定日以外の自主学習予定日を計画的に活用、自主議論することにより、
 - ①各自の論文制作が（孤独の戦いでなく）ある面楽しく、まとまり易くなる。
 - ②お互いの連帯意識が深まるような気がする。

60 歳代〈男性〉

- ・（6）の回答に出た“学びたいこと”を集約し、多数出たテーマは、住民のニーズとマッチしていると思うので新しい講座にするかどうか検討して欲しい。
- ・私自身、具体的には分からないが、もっと市政に係わる事柄を知ることができる活動、授業を望む。
- ・市民大学を受講する方々は意欲があり、今まで申し込まなかった各種、市や公民館の学習機会に参加したいと思うようになる。人数限定の講座や見学会があるが、抽選だけでなく市民大学生枠があれば受講生の参加できる機会が増えると思う。
- ・私のような会社一筋でやってきた者にとっては、2年間の学習はこれからの生き方において大変参考になった。是非、継続をしていただきたい。
- ・年齢の幅を広くし、若い人の参加を希望する。

7. 市民大学で学んだことを活かして卒業後にやりたい事を自由に記入して下さい。

70 歳代〈男性〉

- ・「昭島ブランドづくり」について、メンバー・行程・他は全て未定。
- ・ボランティアガイド・・・これからも勉強ができるから、知らないと説明もできない。

60 歳代〈男性〉

- ・公開講座で、昭島の素晴らしい歴史を発表していきたい。個人的には、昭島で開催する祭礼等を見て、歴史に更に触れていきたい。
- ・自治会の活動に積極的に参加したい。
- ・二年次に開催された文化財見学会に参加した。拝島の歴史にはある程度分かっていたと思うが、次は古代から近代まで、まず自分が生まれ育った「拝島」を中心に再度、学び直したいと思っている。
- ・生涯学習の種が見つかりそう。
- ・継続して調査学習をして行きたい。参加できるグループを紹介して欲しい。

80 歳代〈女性〉

- ・自身の年齢を考えるとやりたい気持ちがたくさんあるが、手近に無理のないボランティアのお手伝いを考えている。
- ・体力的には少し不安だが、将来を託す若い方の何か支えになる事ができると思っている。

70 歳代〈女性〉

- ・サロンの輪を広げ、互助・共助の地域づくり。うわさ話にならないように、個人情報保護を優先しながらの仕組みづくり。

60 歳代〈女性〉

- ・町歩きのナビゲーターボランティアとして、歴史コースで学んだ地域の歴史や地域に残る事物を分かり易く説明し伝えていきたい。古地図や古文書の読み取りを学べるサークルか通信教育かカルチャーセンターに入りたい。

「市民大学」についてのアンケート調査集計（対象者：市民大学修了生）

1. 回答者属性

	1 期	2 期	3 期			4 期	5 期		6 期		7 期		不明	合計
	福祉	福祉	財政	歴史	福祉	財政	財政	歴史	環境	歴史	福祉	歴史		
50 代							1							1
60 代		1					2	1		1	1	3		9
70 代	1		2	1	1	2	3	3	3			1	1	18
80 代							1		1					2
男性			1	1		2	5	3	4	1	1	3	1	22
女性	1	1	1		1		2	1				1		8
合計	1	1	2	1	1	2	7	4	4	1	1	4	1	30

2. 受講理由 累計 複数回答

- ①知識・教養を高める 25
- ②昭島市のことを知る 23
- ③地域活動に参加する 7
- ④人との交流をはかる 16
- ⑤その他 暇つぶし 充実した一時を送る

3. 在学時の市民大学について

①2年制について

- ・1年目は講義、勉強、2年目はゼミ方式でとても良かった。
- ・2年間だと仲間ができる。
- ・3年では長いと思う。
- ・一般教養、ゼミととらえ妥当と思う。（専門学校、短期大学で良い。）
- ・2年制が最適。
- ・1年度教養、2年コース別大変良い。
- ・教養、専門各々1年間の学習時間は必要。
- ・期間について長いと考える人もいる。2年間という時間が有効に使えた。
- ・実質的には3年生。（公開講座の実践）
- ・1年20回だが、もう少し回数が多くても良い。
- ・1年では受講理由を達成できない。3年では退学者が増える懸念あり。
- ・講師から学ぶだけでなく、自分でも調べて学ぶ良い機会です。3年次も可。
- ・当時は良いと思ったが、多少2年次が物足りない感もあり。
- ・大和田先生が各生徒の要望を踏まえて指導してくれた。
- ・個人的には適正、これからはより短い期間の方が入りやすい。

- ・ 1年と2年のギャップが大きい、2年のコースは不可欠。
- ・ 1年次のみでも良い。

② 1年次教養、2年次専門のあり方について

- ・ 1年次は色々な先生と多岐に学べた、2年次は専門で良い。
- ・ 深く勉強しようと思えるので良い。
- ・ 明確な動機がない人にはこれからのヒントになる、80%の出席で進級を。
- ・ このままで良い。
- ・ 全般的な一般教養を学んだ後、専門分野を選べるのは良い。
- ・ このままで良い。区分は学習内容が片寄らなくて良い。
- ・ 生涯学習の目的からすれば適切。1年次でやめる人が多いのが問題。
- ・ 専門3コース以外に自由研究も含め、選択肢を増やす。
- ・ 専門を広げ深められる3年次があっても良い。
- ・ ステップアップの感がある。
- ・ 2年次がないと人とのつながりもできなく行政と触れる事もない。
- ・ 2年次をなくし、無理してコースを分けなくて良い。
- ・ 2年次はもっと幅広い分野（とりわけ文化面）に目が行くような選択肢。

③ 1年次のカリキュラムについて

- ・ 全体に勉強ができて良い。
- ・ テーマと講師選定は難しいと思うが、多方面からの講師により選択肢が増えるようにキッカケづくり多種多様な講座が良い。様々な事が学べて良い。
- ・ 見学があっても良いのでは。
- ・ 内容の見直しは必要。
- ・ 今のままで良い。
- ・ もう少し回数を増やして欲しい程です。
- ・ 一般教養として様々な科目を学べた。役立つ事が多かった。
- ・ 1年次で自分の希望したこと以外の実習がフォーラムで役立った。
- ・ 1人の先生の持ち時間が2時間では短い。じっくり聞きたい。
- ・ 昭島の歴史、財政、環境、高齢者、地場産業、市内企業の自慢話、当事者の講演も加えたい。
- ・ 昭島の歴史に興味を持ち勉強するようになった。（非歴史コース）
- ・ 初めて知ることが多く良かった。
- ・ 1・2年次をまとめた内容で、1年間でやって良い。

④ 2年次専門コースについて

- ・ 前半は人とのつながりが弱くまとまりがなかった。後半先生を中心にコミュニケーションがとれた。
- ・ 仲間の人が良く、進める事ができた。
- ・ やりたいことが決まっている人は良いが、マッチングできない人には苦痛。
- ・ 文章教室のようなものも取り入れてほしい。

- ・コース別人数の偏りには工夫がいる。
- ・講習が少なく、記録集づくりがかかった。
- ・専門分野に突出せず、昭島との係わりにも触れるバランスが欲しい。
- ・同じグループの人と連帯感ができて良い。
- ・職員の方は、3コースの人数配分にこだわっているように見られた。後でみるとコースの人数は重要な要件だと分かった。
- ・1年次で学習したと同じ、教養を深める講座を追加して欲しい。
- ・昭島の歴史を学び発表の機会を持てた。(昭島の歴史を楽しむ会)
- ・学ぶ機会の少ない財政について学ぶ事ができた。
- ・財政コースで福祉のことも勉強できた。
- ・調べ学習の習得には短い気もする。地域課題の調査研究を自主学習で実施するのは良い。
- ・個人的には良い。レポートの提出等が苦しいと思われた方もいる。
- ・今まで関心のなかった行政について大枠がわかりました。
- ・やや重荷になる人もいます。負担にならない程度に。

⑤クラスメイトについて

- ・最初は少し難しい面もあり、だんだん親しくなり人間関係の輪が広がる。14年たっても交流があり嬉しい。
- ・良い仲間に恵まれた。
- ・年齢が上の方が多く、勉強になった。
- ・さらに実践活動が続ける人は少ない。相互に活動を通じ刺激し合えると良い。
- ・長い間、仲良く勉強に励んでいる。
- ・2年次で少人数になり、より親睦を深められた。
- ・年齢的にやめる人もいる。期を横断的にまとめてはどうか。
- ・専門コースで少人数になり、より良い交流が可能になった。
- ・修了後グループから離れる人もいるが、復帰できる場所は用意している。
- ・現在もグループ活動を継続している。
- ・高齢の方も多かったが、熱心に学んでおり感心した。
- ・広く知人を得た。期を超え市内に広く得たことは喜びです。
- ・何人かは各種事情から去ったが、今でも良い関係が続いている。
- ・2年次のコースで、仲間がかなり減っていった。
- ・異なったバックグラウンドを持つ人達との出会いが良い。
- ・素晴らしい人達が集まった。目的が異なるので全員が長く深くは難しい。
- ・毎月5～8名で勉強会を実施している。

⑥講師、チューターについて

- ・講師の年齢が高いと耳や目など不便な点がある。
- ・熱心に教えてもらえた。大変良い先生を選定されている。
- ・担当の先生が、休みが多かった。

- ・各人にやる気を持続させ良い相談相手になっていた。
- ・声が大きく歯切れの良い講師を今後も期待する。
- ・専門知識、熱意があり適任だった。
- ・先生の偏りには工夫がいる。毎年同じ先生はどうかと思う。
- ・最終的には昭島市との係わりについて教えて欲しい。
- ・先生にはお世話になった。今は連絡を取っていない。
- ・すべての先生が丁寧に関わりやすく講義してくれた。
- ・歴史コースのチューターは元市職員でした適任だった。1名は市の職員から選出したい。素晴らしい講師の方々である。
- ・近代史専門の先生だったので古代、中世については不安であった。
- ・幅広い講師、チューターに会えて良かった。
- ・知識が豊富で受講者が何とか成果を出せるようにと対応してくれた。
- ・前々係長が良くしてくれた。今も変わらず接してくれます。
- ・自主学习、調査研究学習を指導できる講師であれば良い。
- ・それぞれの分野に適した方が配置されていた。
- ・メディア関係の講師を入れて欲しい。

4. 卒業後達成したこと、実行していること、やりたいこと

- ・仲間作りやパソコンの勉強ができた。現在は仲間と自分たちの老後や介護の勉強をしている。フォーラムでいろいろな情報提供があり講座でも勉強ができています。
- ・文学の勉強会を立ち上げ続けている。フォーラムに参加している。新しい会ができた時、参加する事に意義を感じる。
- ・自分自身で勉強しないといけないと思いアンテナはいつも出している。他の人達からの意見を聞きたいと思い参加を多くしている。
- ・人と人のつながりをコーディネートすること、高齢者の3Kに対応、健康寿を延ばす活動をすすめたい。サロンの開設を決意表明したがまだ不十分である。
- ・多方面の知識を得て、知恵に結び付けばと活動中である。
- ・地域活動に積極的に参加するようになった。仲間と月1回定例会や見学会をもち教養を高め親睦を深めている。
- ・環境への（身の回りのことで）考え方が大きく変化し取り組みが真剣になる。
- ・自治会副会長、老人会会長、各種ボランティア活動で地域貢献している。
- ・健康のもとである。これら活動の輪を広げていきたい。
- ・環境6期昭島として月1回の活動をしている。和気あいあいと楽しく実施中。
- ・仲間ができたこと。フォーラムも先輩、後輩の仲間に感謝。いろいろな人がいて世の中の勉強になる。
- ・歴史コースの仲間による自主活動を通して、昭島、日本の歴史への関心が高まり啓発され住んでいる昭島を見直す契機となっている。
- ・昭島に住み、多摩川の自然環境で流域を観察でき有意義に思う。この様な活動が

できる組織を組めて良かった。

- ・グループ活動の継続、フォーラムでの活動、生涯学習の実践。
- ・退職後の時間を有効に使えいろいろ学べて良かった。フォーラムにも参加。これからも地域社会に貢献できればと思う。
- ・シニア生涯学習の入口に立てた。市民大学は自分にとって意味があった。郷土資料室の説明ボランティアをしている。学んだ事が役立っている。歴史文化を楽しむ会の活動の充実をしたい。
- ・旧石器時代とホモサピエンスの勉強。仏教について学ぶ機会を得た。宗教について、「悟りとは」「宗派とは」、宗教の必要性その他を学びたい。
- ・終了コースに捉われずに新たなグループを創って活動することができている。グループ活動を他へも広げたい。
- ・仲間と昭島財政白書を発刊。毎月グループで勉強会を開催している。勉強会で仲間と会えるのが楽しみ。
- ・仲間と月1回勉強会を開催。そのことで自分で色々な知識を求め勉強になった。
- ・財政グループで毎月定例会を実施。仲間意識の強化と連帯性の形成。市民大学の仲間の紹介で趣味の会に参加した。
- ・いろいろな立場の人達と出逢え、良い刺激を受けている。
- ・昭島市に人的ネットワークができた。講座等を通じ市民への働きかけ。RESASを使って地域活性化の解析をしたい。
- ・意欲的なクラスメイトから刺激を受けながら、興味の湧く対象に対し自発的学習を続けている。
- ・フォーラムの充実発展を期待している。後輩の続くことを願っている。
- ・実践的な町づくりに参加したい。

5. 今後の市民大学のあり方について

- ・卒業して10年、今もフォーラムと関わっている私は受講して良かった。知的好奇心のある人にとっては、趣味とは違うレベルの勉強で定年後の男性にとって入り易い講座である。生涯教育の場としてレベルの高い講座があるのは良いことだ。
- ・何故参加者が少ないか、バブル崩壊以後中高年が働かなければならない状態になっている。欠席については、もう少しゆるやかでも良い。
- ・今までの2年次の3コースと違って良い。受講者の人達で話し合ってはどうか。私の時はコースが決まっていた。
- ・毎年募集したらどうか。それにより卒業後も継続して活動する人は増える。公民館事業の柱として位置づけ、卒業後のつながり、フォーラムやその他の活動にスムーズに絡めるようにする。公民館の広報担当にもなり得るので、仲間づくりで結束し、維持、継続すべき。卒業後の進路を明確にしていくべきと思う。市民大学は公民館のファンづくりでもある。
- ・新聞の記事から適切なものを取り上げ、深く考え意見を交わしたい。

- ・高齢者が多い割には、入学希望者が少ないと思う。市民大学の認知度を高める活動が重要だ。
- ・現状で良いが専門コースの追加も可。卒業後のフォーラムに全員参加するのは期間が長すぎて、おじけついてしまう。フォーラムは希望者のみにしたい。
- ・2年次のコースに対する講師が少々片寄っている。
- ・多くの市民が市民大学で学ぶことで、住みやすい昭島の実現のために手助けすることができる。市民の育成を目指して欲しい。
- ・終了後、フォーラムで活動するも良い。外部でボランティア、市民活動、社会活動するのも良い。有意義に余生を送りたい。
- ・生涯学習を基本においた、2年次の（調べ学習）、この形態について入学時もっと強くアピールする必要がある。1年次から2年次への進学率低下のもと。
- ・60代以上の人が多いが、若い人も気軽に参加できるようにしたい。
- ・3年目の講座企画運営の活動に対するより活発な運用支援体制が図れないか。（フォーラムによる支援はある）。3年目からフォーラムに組み込むことにしても良い。授業時間帯について、Aバスの時刻に合わせられないか。カラーコピー機や各種バージョンアップした器機を導入してほしい。
- ・フォーラムの中だけでなく、地域社会への活動ができると良い。市と一緒にできる事はないか。1年次の内容を少しづつ変えて欲しい。
- ・多種多様な関心事に対応できる講座を企画して欲しい。
- ・2年間では短い、グループとしてのまとまりも不十分である。新たな上級コースを2年間設けて欲しい。フォーラムへの参加を半ば義務付けたい。
- ・「地域課題の解決」「自主学習」「生涯学習」がKeyWordとなる。これを満足させるのが市民大学のあり方。1年次は現代社会の解くべき課題。2年次は地域社会の課題を見出す学習方法の習得、実地での自主学習方法の習得。これの習得に1.5年程度は必要。3年次の後半に学習成果の発表会。修了高齢者が自主学習を行い、発表することは非常に意味あること。
- ・行政に市民として協力できることに参画する。老後の医療・介護費削減のために出来る事をしたい。（財政の削減を目的として）
- ・60代、70代でも就業者は増加している。より短い期間で、最初から関心のあるコースを選択できる方が良い。
- ・働き方に変革がある。70代、80代でも働き続けざるを得ない世の中になる。市民大学は一部の余裕ある層を対象に規模を縮小して、続けるのか。如何に実学にそった内容にするのか。（健康で稼ぐための講義・討論）再度勉強し直すことで、役にたちたい。
- ・膨大な情報に流されず、自らの意志で取舍選択する姿勢を学んだ。一本筋が通った生涯学習の場として継続したい。
- ・他市での内容を調べ、良いところを参考に取り入れたらいいと思う。
- ・楽しく学べる工夫をして欲しい。時事問題など現実の世の中の動きに関心を持ち

興味を感じずるようなテーマを、アプローチして入っていくのが良い。

6. 市民大学の名称について

- ・ 知的好奇心をそそる。
- ・ 市民に知られてきている。今のままで良い。
- ・ 自発的にテーマを持って学習。
- ・ 活動する場、発信する場。
- ・ 市民カレッジも良いが、現状でも可。
- ・ 本物の大学と区別するには、～カレッジ、～スクールでも良いかも。
- ・ 写真付きの「昭島市民大学学生証」の発行をしたい。
- ・ 分かり易いが、もう少ししゃれた名前も良いかな。
- ・ 高卒の方には大学の響きが良く、大卒以上の方には再度学びなおすような気持ちになる。「昭島市フォーラム」や「フォーラム昭島」も考えられる。
- ・ 大学という名称はどうか？
- ・ 少し堅苦しい。
- ・ 固いイメージだが、無理に親しみを持たせる必要は無い。

市民大学聞き取り調査

公民館運営審議会

アンケートを提出して頂いた方より、さらに9名の方に聞き取りをしました。

A氏 6期環境

6期環境の会（10人）で月1回集まり、親睦を図っている。年3～4回は環境に関連した見学会を実施している。

1. 文学系を系統的に学びたい。
2. 専門コースは、選択範囲を広げる。1期で3コースなら次の期は違う内容のコースにすることで、応募者が増える。

B氏 3期環境・C氏 3期歴史

1. 専門コースは、記録をまとめるのが大変でした。しかし自分の好きなコースなら励みになり、けっして困難ではない。楽しく学べた事を伝えたい。
2. 高いレベルを維持し、それなりの人材を集めるのが良いと思う。優秀な人は勉強への意欲が強く、そのような人の受け皿にしたい。
3. 高齢者で働いている人への対応も必要だ。やる気があれば就業者でも継続は可能。
4. 内容が每期同じで変化がない。見直しは必要。
5. 市民大学で昭島市内に高度な付き合いが広がった。

D氏 7期歴史

環境コースで、飛行機の騒音を研究したかったが7期には該当なし。

1. 1年次の講義の中に、先生への質疑応答の時間や、グループ討議の時間を取り入れたい。ただ聞くだけでなく下調べが必要になり充実する。
2. 2年次は、従来のコース以外に個人別自由研究も有にしたい。自分の好きな課題を選んで学習する。先生はフォーラムの先輩に担当してもらい、アドバイスを受ける。今後、期が進むと取り上げる課題が、重複してくるため2番煎じになることが考えられる。
3. コース別をオーバーラップさせた授業で各コースの交流を図る。2年次でコースが分かれ、横のつながりが無くなっている。
4. 一般の人が参加できる授業があっても良い。(聴講生)

E氏 7期歴史

「歴史を楽しむ会」で月1回集まるが、高齢や障害で外での活動はできなくなった。活動には健康問題も重要。

1. 昭島市内に大学がないので、学ぶ場としての役割は大きい。(八王子市は大学が多く、高度な学問を受講しやすい。)
2. 卒業後も継続して学びたい。7分のテーマを追求したい。2年で修了したりフォーラムも2～3年でやめるのは、もったいない。卒業なしの「あすなろ大学」方式も良い。
3. 新しい総合センターと連動した講座を考える。生涯学習部で一体となった講座を考える。
4. 卒業後のグループが勉強できる場が少ない。外部の講座を受講している。
(多摩信歴史講座、読売新聞講座)
5. 2年次コースはOBの人と一緒に学ぶ時間も良い。特に財政コース
6. その他
 - ・高齢者の足としてAバスの時刻に合わせた授業時間にする。
 - ・調べ学習で他所を訪問時、名刺代わりに身分証(学生証)があると便利。
 - ・公運審選出母体として、フォーラムはどうか。
 - ・2年次女性5人のうち、1人が仲間に入れず途中でやめた。

F氏

フォーラムで市民向け講座を年6回実施した。フォーラムで勉強会をして記録集を発行している。

1. 市民大学の学習目的をはっきりさせる。昭島市に役立つ人材、活躍する人を育てるなら、内容を社会教育に限定すること。生涯学習として実践的教育を目指す。文化教養を深めるためなら、文学等も必要であるが。一般教養は現状の市民大学とは別枠で考える。

2. 市民大学で学び社会に役立てる事を目標にする。目的は市民の役に立つこと。
3. 1年次は一般教養ではなく、2年次で学ぶための基礎や、修了後の活動に直結することを学ぶ。過去のすでに終了した実績を学ぶ。地域社会の課題を学ぶ。自主学習の基礎を学ぶ。2年次は自分で調べる。3年以降は実践に移す。
4. 終了すると市民大学から離れてしまうが、現役とOBはもっと交流があってもよい。大学に残り勉強したい。フォーラムが講師になることも可能です。
5. フォーラムで実践していることを一般の人に知って欲しい。高齢者（卒業生）が頑張っていることを見せて、市民のやる気を引き立たせる。
6. 学問的意欲のあるひとが入学してくるので、人材として活用したい。仲良しクラブでなくて良い。

G氏 5期財政

入学時は福祉か歴史を希望していたが、1年次の財政講座を聞いて変更した。

1. 無理にコース設定をしなくても良い。どのコースを選択したかは関係なく同じ仲間として付き合えることが大事です。1年次の内容は充実しているので、1年で卒業でも良い。1年のうちに人間関係が形成されるようなコミュニケーションの場を作り、卒業後も連携して地域貢献できるようにしたい。
2. 1年次から2年次への進学時で、授業内容にギャップがありすぎる。2年次は急に突き放されて自主学習となる。かなり抵抗を感じ、ついていけない人もいる。研究テーマが決まらない人にとっては、記録作成が負担になる。気楽に学べる内容にしたい。
3. 卒業後スムーズにフォーラムに参加できるように、在学中に知ってもらいたい。フォーラムの継続のために新規参加者を増やしたい。
4. 5期財政の会（8名）が継続しているのは、各自がチームの輪を大事にしているからです。毎回、相互の意見交換が励みになっている。

H氏 7期福祉

1. 自由な時間ができたので、入学した。昭島のことを知りたくて歴史を希望したが、人数合わせで福祉になった。1年次の授業で福祉の大切さを知り、母が認知症でもあり、市民大学がその後の活動のきっかけになった。
2. 1年次の一般教養はいろいろ学べて良かった。2年次の研究テーマが絞れず苦労する人がいる。少しレベルを下げて良い。
3. 卒業時フォーラムの話が出たが、それまであまり関心が無かった。フォーラムは期ごと、コースごとに区分されているので、フリーな立場の人は参加しにくい。
4. 卒業後、高齢者サロン活動をしている。参加者がいるか心配したが、50人の応募があり、今も40人が参加している。男2人女6人で運営している。月1回ですが、継続させるのは大変です。社協に応援してもらい、各種イベントも取り入れている。老人会にも参加できない一人暮らしの人を外出させたいと思う。健康予

防に予算を使ってもらいたい。サロンの連絡会があるが、あまり機能していない。

I 氏 5 期財政

学ぶ意欲のある人が集まっている。現役からはなれて今まで出来なかった興味を引く事を探すため入学した。2 年次コースが 3 つに限定されていたので、あまり関心が無かったが財政を選択した。

1. コースの選択肢を広げたい。財政、福祉、歴史の他に環境保全、防災、文化芸術など。大学の目標が、行政と協力して市民に役立つことに限定されると、文化芸術や歴史は入れにくい。しかし昭島のことを知る歴史は、地域を知ることになり、興味を持つ人は多い。防災は地域の特殊性を踏まえた、生活感覚として定着させるために必要です。文化芸術は学問として理解を深める講座なら良いのではないか。時事問題の研究で世の中の動きを学びグローバルな考え方を身につけるのも良いと思う。
2. フォーラムについては、あまり堅苦しく考えないのが良いと思う。現状は楽しさに欠けている。フォーラムの役目の 1 つは研究課題を市民の声として市政に反映させることです。街づくりの知恵袋として、補佐役として行政に寄与できるようにする。社会的な課題を取り上げていきたい。
3. 市民大学の目標
やりがいがある。中身が濃い。関心が持てる。興味が持てる。

チューターの意見

年齢制限について

行っても高齢者ばかりという評価はある。別コースでもう一度という要求がある。

調べ学習てきなものについて

最近 6 期位から、自己実現の機会提供が強くなって、地域貢献、仲間づくりよりも、自分の関心の実現に重点があるようになった。参加者が減少し、レポートのテーマがなかなか決まらなくなったので、7 期と 8 期は 8 月まで講義をして、秋からテーマを決めるようにした。昭島の財政の 50%は民生費なので、福祉との連携も考えたが、秋にそうするのは遅いからやめた。相互乗り入れも考えてよいのでは。過去の記録集を読んでもらっているが、それがスムーズにいかない。

以前はレポートも多く、二分冊だった。当初は、使命感を持っている人が多かった、第一志望で選んだ人が多かったが、この頃は第二志望で振り分けられたのが多い。(財政)

ひとつのテーマをみんなでやると、昭島の歴史で手つかずの事があるので、おおくの人でやれると良いと思っていたが、みなさん関心を持っていることがあるので、それぞれ別々に行っている。ひとりでやるよりも、複数で分担するのがいい人がある

かもしれない。地域貢献するという問題意識は希薄だけど、観光ボランティアで力をつけたいと来ている人がいる。自治会で話を頼まれた人がいる。機会があれば地域貢献するけど、始めからそうではない。（歴史）

講義中心か、調べ学習か

人数を増やすには、講義中心だが、それだったらむしろ受講料取って。（歴史）

三コースについて

一年次の終わりにテーマを出してもらって、それにこたえるとなるとチューターを増やさねばならないから、一年目の始めにテーマを出してもらおうと対応する時間が取れるかも。

三コースで、複数年度ごとに変えてもいいのでは、今年あたりでは四コースでは成り立たないコースが出てくる。

1年から2年目の移行

7，8期にこの修了者インタビューのような意見が出て来た。（2年で突き放されてテーマ決めるのは大変という意見）（財政）

地域貢献について

フォーラムが一つの到達点だけど、人材養成の面もあって、小学校、中学校で地方自治の時間があるので、市民大学で一定の段階に達した人を公民館で人材リストとして作成し、学校に外部講師として行く、学校の先生は地域のことを知らないから。国分寺ではハケの学習に、地域の人に講師をしてもらったことがあり、それが文部省の方で優良事例として取り上げられた。（財政）

歴史に関しては、郷土史研究をしている人を学校で把握している。（歴史）

その他

現役の時は、仕事一辺倒で、定年になってから地域に向けた人が多い。（歴史）財政も関心を持つのは定年後。民間で会計事務をしていた人が多い。（財政）

パソコンで苦勞している。図書館の調べ方を知らない。一年時にパソコンや図書館の話をした方がいい。（両方）

昭島市公民館運営審議会建議作成経過

2019（平成 29）年

第 12 回定例会（9 月 8 日）

建議として市民大学を取り上げることを決定

第 13 回定例会（10 月 13 日）

事務局提出の資料：市民大学経費を検討

アンケート調査決定

第 14 回定例会（11 月 10 日）

事務局提出の資料：年代別、地域別参加者を検討

アンケート、チューターインタビュー担当者決定

市民大学受講生アンケート担当：横山、井桁、小川、植松

市民大学フォーラム関係者など担当：大澤、山崎、天沼

チューターインタビュー担当：大串、山崎

第 15 回定例会（12 月 8 日）

アンケートの内容討議

2020（平成 30）年

第 16 回定例会（1 月 12 日）

座間市のあすなろ大学の学習会

第 17 回定例会

社会教育関係委員研修会（2 月 21 日）

第 18 回定例会（3 月 9 日）

町田市のまちだ市民大学・ことぶき大学について学習会

第 19 回定例会（4 月 12 日）

アンケート結果集約を報告、討議、ヒアリング結果報告、議論

第 20 回定例会（5 月 11 日）

チューターの意見を報告、議論

第 21 回定例会（6 月 8 日）

建議骨子提案、議論

第 22 回定例会（7 月 13 日）

建議案提案、議論

第 23 回定例会（8 月 10 日）

建議最終案提案、採択